

取りつけましたか？住宅用火災警報器

住宅用火災警報器とは、火災により発生する煙を感知し、音や音声により警報を発生して火災の発生を知らせてくれる機器です。

富良野広域連合火災予防条例において、寝室と階段（2階に寝室がある場合）に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。まだ設置されていない家庭がありましたら設置するようお願いいたします。

火災は決して他人事ではなく、どこか家庭にでも起こり得ることで。万が一のときでも、火災警報器があればいち早く火災を知らせてくれます。

救急出場状況

(11月分)

一般負傷	1件(1人)
急病	6件(5人)
11月計	7件(6人)
累計	173件(148人)
※()内は搬送人員	

警報機が鳴ったときの正しい対処法

火災のとき	大きな声で知らせましょう。避難しましょう。 119番通報しましょう。可能なら初期消火を行いましょう。
火災ではないとき	火災ではないのに火災警報器が鳴る場合があります。 警報停止ボタンを押すか、ひき紐を引いて警報を止めてください。
電池切れのとき	電池切れ警報が鳴ったら電池を新しいものに交換してください。 機器ごと交換する機種は、新しい火災警報器に交換してください。



※住宅用火災警報器は古くなると火災を感知できないことや音が正常にならないことがあります。設置から10年を目安に交換しましょう。

地域とともに
コミュニティ・スクール情報
～占冠中央小学校～
教育委員会学校教育担当 56-2182

学習発表会の取り組み

新型コロナウイルスの影響により、分散開催となっております本校の学習発表会ですが、本年度は全国的な規制緩和や本校を取り巻く感染状況から、11月12日（土）の合同開催を決断し、実施いたしました。

当日は100席強の観客席を設けさせていただき、ほとんどが埋まるような状況となりました。多くの方々に日頃の頑張りを見ていただけたことや、温かい声援を受け、子どもたちもやりがいを感じられた1日となりました。長きにわたって練習を積み重ね、自信を持ち、のびのびと発表できたことは、日頃の学習の成果やご家庭での励ましの賜物であると考えています。

学習発表会に際して、ご支援、ご協力をいただきました皆さま、子どもたちの活躍をご覧いただきました皆さま、大変ありがとうございました。



一転してコロナの猛威

学習発表会が終わり、学校一同が安堵していた頃、新型コロナウイルスは着々と忍び寄ってきていました。11月21日（月）には大量の風邪症状が報告され、22日（火）には本年度9月の臨時休校に続いて2回目の臨時休校を余儀なくされてしまいました。状況は、週末にかけて高い発熱(38度以上)の他、鼻水や喉の痛み、咳等の症状が見られるというものでした。最終的に、児童・教職員に10人以上の陽性、風邪症状が発生しました。学校では、消毒、換気、マスク、使用教室や物品のアルコール消毒等、求められている感染症対策を継続して実施していましたが、感染が広がる時は一瞬です。学校内の感染状況は減少に向かっていますが、現在においても、コロナウイルスは家庭内にも猛威を振っているようです。

年末年始にかけて人の流れも増えるものと思われ、数年ぶりに海外旅行等も大規模に復活する等の報道が盛んに行われていますので、少しでも早期にコロナウイルスが終息することを願うばかりです。

野生動物対策の状況

農林課林業振興室
野生鳥獣専門員
56-2174

エゾシカ

11月の駆除捕獲は32頭で、前月に続いて昨年並みでした。12月は19日現在までで10頭余りです。冬は捕獲効率が低下し、また発見するシカの所在や数の変動が大きい季節でもあります。今冬も雪と寒さに負けず、捕獲を続けていきます。

ヒグマ

ヒグマが冬ごもりに入る時期は幅があって一概に言えませんが、12月中に多くの個体が入ったと考えられ、9か月余にわたる今期のヒグマ対応がようやく終わりました。夏には上トマムの市街地対応あり、デントコーン被害ありとハードでしたが、秋以降は憂慮すべき出現状況がなく、静かな幕引きでした。また1年、人身被害なく過ごせたのは、村民の皆さまのご協力のおかげです。来シーズンもよろしくお願いたします。

酪農学園大学による電波追跡調査は、10月28日の1頭目(単独メス成獣)に続き、11月22日に2頭目(オス成獣)の捕獲に成功し、ともに行動追跡が続いています(右図)。メスは長く占冠第2トンネル北方の山中に留まっていたようですが、12月に入って突然に東へ急進し、落合側の山中で冬眠に入ったようです。一方のオスは湯の沢の西の山中で定着的に過ごした後、これも12月初旬に突然の南下を始め、鬼峠北方を越えてニニウをかすめ、穂別福山付近まで下りました。いつどこで穴に入るのでしょうか。

昨年の調査で追跡したメス成獣個体は、双珠別からトマムへ村道や林道を使って移動していましたが、今回の2頭は尾根や沢、道路に沿うことなく、無造作に地形の起伏を踏破しているように見えます。次々と明らかになるヒグマの行動に興味を尽きません。



情報提供：酪農学園大学

こちら駐在所です

占冠駐在所
56-2110

雪による事故の防止 ～慣れた雪かき 危険がいっぱい～

早めの氷雪下ろしを！

例年、屋根からの氷雪の落下により、下敷きになるなどの事故が発生しています。氷雪が屋根からせり出している軒下などは、危険ですので近づかないようにしましょう。また、氷雪は早めに下ろして、落氷雪による事故を防止しましょう。

雪下ろし作業は複数で行い安全確保！

例年、屋根の雪下ろし中に、はしごや屋根から転落する事故も発生しています。作業するときは、補助者を置くなど複数で行うとともに、転落防止や万一に備え、万全の措置を講じ、自身の安全を確保しましょう。

除雪機に注意！

例年、除雪機による除雪作業中に、衣類を巻き込まれたり、下敷きになるなどの事故も発生しています。除雪作業時は、作業に適した服装を着用し、エンジンを掛けたまま雪詰まりを取り除くなどの作業は絶対にやめましょう。

